ボーイスカウト浜松第7団　新型コロナウィルス感染予防対策　2020/8/31

浜松市立小中高等学校における新型コロナウィルス感染対策マニュアル（第2版）、ボーイスカウト日本連盟「スカウト活動における新型コロナウィルス感染拡大予防ガイドライン」、静岡県連盟「スカウト活動における新型コロナウィルス感染拡大予防ガイドラインに基づく具体的な対応基準」を参考に、ボーイスカウト浜松第7団の活動対応策を実施する。

2020 年8月末時点での浜松の状況は「新しい生活様式を踏まえた学校の行動基準」において、ボーイスカウト静岡県連盟から一番警戒レベルの低いレベル1の段階にあると判断されている。

地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い教科活動	部活動（自由意志の活動）
レベル1	1mを目安に学級内で最大限の間隔を取ること	十分な感染対策を行った上で実施	十分な感染対策を行った上で実施

新型コロナウィルス感染症を防ぐための注意事項

1.　スカウト、指導者、保護者の参加に関して

（1）　保護者の不安がある場合は、十分な説明を行い、参加を強制しない。

（2）　スカウト、指導者、保護者は活動参加前に体温を測り発熱等風邪症状のある場合には活動に参加しない。

（3）　新型コロナウィルス感染症では、一旦症状が治まっても再発する可能性があるため、過去2週間以内に発熱等風邪症状が有ったスカウト、指導者、保護者は活動に参加しない。

（4）　健康観察記録は各家庭において保存し、活動前に隊長に報告する。

（5）　活動中に発熱等体調不良になった場合は、速やかに保護者に連絡し、保護者に引き渡すまで他者との接触を可能な限り避ける。

（6）　活動後2週間以内に体調不良になった場合、速やかに隊長、団に連絡を入れる。

2.　活動中の対応

（１）人の密度を減らすよう工夫し、集合体形はお互いの距離を1～2m程度空けるよう努め、近距離での会話や発声を避ける。

（２）指導者はマスクを着用し、スカウトまでの距離を可能な限り（2m以上）離れること。

（３）スカウトが水分を補給する際、密集しないように指導する。

（４）活動を行う際、複数の教室に分かれて実施する等の工夫を行い、スカウト同士が近距離での会話や大声での発声及び高唱を避けることができるようにし、飛沫を

飛ばさないようにマスクを着用する。

（５） できるだけ個人の装備を使用し、スカウト、保護者、指導者同士の貸し借りをせず、器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いを行わせる。

（６） 歌唱、祝声の際は十分な間隔をとり、人がいる方向に口が向かないようにする。室内や屋外でも十分な間隔が取れない多人数の時は歌を拡声器で流し、小さな声または心の中で歌う。祝声は拍手や感謝の礼で代替えする。

（７） 野営の場合は個人テントとする。

3. 移動に関して

（1） 自動車での移動は各家族単位、乗り合わせは保護者どうしの判断で行う。

（2） 公共交通機関を利用する場合は混雑時を避け、分散乗車、車内での会話はしないように指導する。

4. 建物内での対応

（１） 屋内で大人数が集まる集会やイベントは極力避けるようにする。

（２） 部屋の大きさに関係なく（体育館のような大きな空間でも）換気は、常時2方向の窓を同時に開ける。（対角線上に開けると換気がスムーズである。）エアコン使用時においても換気は必要である。

但し、気候上、換気が困難な場合は、30 分に1 回以上、数分間程度、可能な範囲の換気を行う。

窓のない部屋は入口を開け、換気扇を用いる。

5. その他、基本的な感染症対策

（1） 手洗いの徹底と消毒の活用

ア. 流水と石けんでの手洗いの徹底

イ. 石けんやアルコールに過敏に反応する、または手荒れの心配がある場合は、流水でしっかり洗うなどの配慮をする。

ウ. 手洗い後は、清潔なハンカチ等を使用し、手を洗う前に目や鼻や口を触らないように指導する。

エ. 通常、マスクを着用する。スカウトが十分な距離を取りにくく、近距離での会話や発声が必要な場合は、マスクの着用を徹底する。なお、マスクの着用がない際は、ティッシュやハンカチなどで口を覆う。

オ. マスクの種類や色は問わないようにする。ただし、運動する際は、N95マスク・医療用マスク・産業用マスクというような呼吸に支障が出るマスクは認めない。

カ．　マスクを触らないように心がけ、マスクを触った後は手を洗うように心がけることを指導する。

キ．　マスク着用時はマスク内の湿度が保たれ、喉の渇きなど脱水症状を感じにくくなる。気候の状況等により、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外す指導をする。熱中症などその他のリスクが懸念される場合は、スカウトが自己の判断によりマスクを外し、その際の咳エチケットや他のスカウトとの距離を保つなどの配慮ができるよう指導する。

ク．　屋外の活動に関してはマスクの着用の必要はないが、スカウト間に2mの距離を確保する。特に同じ方向に移動する場合は出来るだけの距離を確保する。

ケ．　共通装備を使用前の装備の消毒、使用後の手指の消毒もしくは手洗いを徹底する。

6．スカウトが本感染症について理解し判断・行動できる指導

（１）指導者の目が届かない所で、スカウトが感染のリスクを自ら判断 し、 これを避ける行動をとることができるよう、感染症対策に関する指導を行う。（飛沫感染、接触感染の仕組みに関して）

7．飲食に関して

（1）　食事前に手指の消毒が行えるように計画、準備する。

（2）　配膳にあたっては、全員マスク着用とし、飛沫感染を防ぐために、会話は控え、密集しないよう指導する。

（3）　喫食にあたっては、飛沫感染を防ぐため、向かい合わせにならないようにするとともに、会話を控えるように指導する。

（4）　食器はスカウト個人装備を使用する。共用はしない。